

## 不思議な出来事

六年 佐原璃華

私の家には三匹の茶トラ保護猫を飼っています。六月、私がいつも不思議に思っていることがあります。子猫を見つけたり、助けたりするのがこの六月だけなのです。私が三年生のころから六年生の今年までで、必ず六月に家族が猫を保護したり、小屋で見つかったりしています。四年連続と一年生のころにも、家に迷いこんで来た子猫を飼い始めたので、六月だけどうして？と思い調べてみました。四月と九月に赤ちゃんを生む事が多いそうで、母猫からの手はなれ少し大きくなり、自由に動けるようになる六月に迷いこんだり、捨てられたりした猫を見つけたことが多いんだと分かりました。我が家の猫三匹も四月と九月生まれなので、その通りでおどろきました。

そして、今年六月、また不思議な事が起こりました。父が仕事中心、お客さんの家の庭で作業をしていると、反対側の家の木の中からとてつもなく大きな声でニャーニャーと泣く声が聞こえたそうです。家の人が困っていたので、猫好きの父は声のする方へ行ってみたそうです。木の中を見ると、手の平に乗る小さな子猫が一匹だけこっちを見て助けを求めているそうです。家の人が役所に確保してもらおうと言っていたので弱ってしまい飼い主が見つからなければ殺しよ分になってしまおうと思い、

「私が、責任を持って引き取ります。」  
と伝え連れて帰ったそうです。すぐ体を洗い動物病院に連れて行きました。顔見知りのじゅう医さんなので、

「毎年保護してくれたら、飼い主を探してくれて、猫の救世主だね。助けしてくれる人を猫は本能で分かるんだよ。」

と言ってくれて、とてもうれしかったです。

子猫は、検査をして飼い猫にしてもいいと言われました。祖父母が子猫を家族にすると決めてくれて、みかんという名前になりました。

我が家には、保護猫を引き取ったら、ルールがあります。毎年のワクチンとひにん手術をすることです。昨年保護された犬猫はおよそ七万二千匹で、この内、四万匹はじょう渡会などで新しい家族を見つけているそうです。殺しよ分の数は十年前に比べて十分の一に減ったそうですがまだまだ減らしているのではないかと思います。殺しよ分されてしまう犬猫を、少しでも減らすために私達が責任を持って最後まで飼う、必ずひにん手術をして猫を増やさないようにすることが大事だと、また強く思いました。

大切な一つの命、人も動物も同じ。動物はたくさんのおよこびといやしをしてくれれます。我が家の三匹の猫も大切な家族としてずっと一緒に、幸せに暮らしていきたいです。